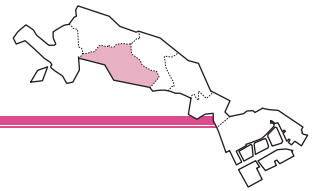


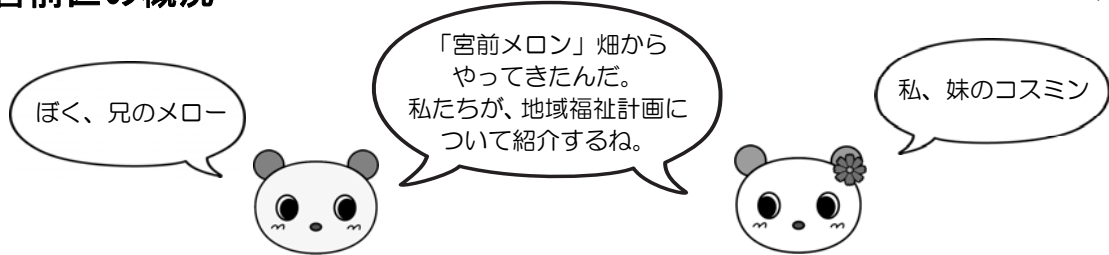
計画策定にあたって

第1章

1 宮前区の地域の特徴



(1) 宮前区の概況



宮前区は、川崎市の北西部に位置し、古くから農村地域としての営みが行われてきました。

明治22年の市制・町村制の実施により、宮前村と向丘村が生まれ、昭和57年7月高津区から分区し、宮前区となりました。



区域は、多摩丘陵の一角に位置し、坂道の多い起伏に富んだ地形になっており、平瀬川、矢上川及び有馬川などの河川、生田緑地や菅生緑地、東高根森林公園などの豊かな環境資源に恵まれています。

また、農地が多く残されており、メロンやトマト、ブロッコリーなどが「かわさき農産物ブランド」に登録されています。

昭和41年の田園都市線の開通や昭和43年の東名高速道路の開通に伴う東名川崎インターチェンジの開設などによる交通の利便性が高まったことから、郊外住宅地として開発が進み、今もお宅地開発が進行しています。

「宮前区農産物直売所」のご案内

宮前区には、採れたての野菜などが直接手に入る農産物直売所が50か所以上あります。

「宮前区農産物直売所 Guide&Map」を片手に、身近な“おいしい”を発見してみてもいかがでしょうか。

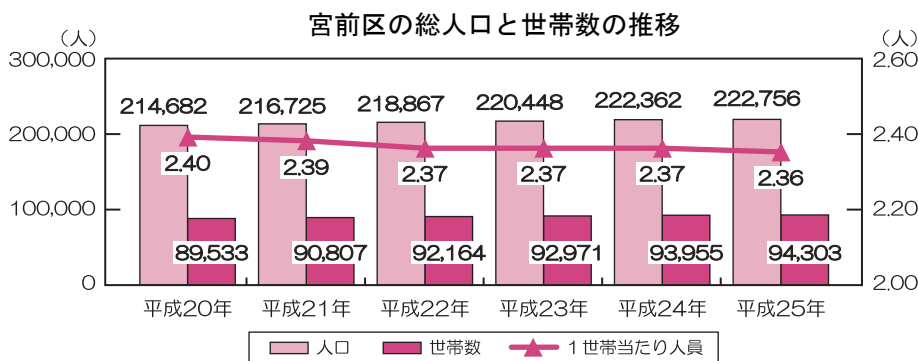
「宮前区農産物直売所 Guide&Map」は、宮前区役所地域振興課で配布中です。



(2) 宮前区の現状

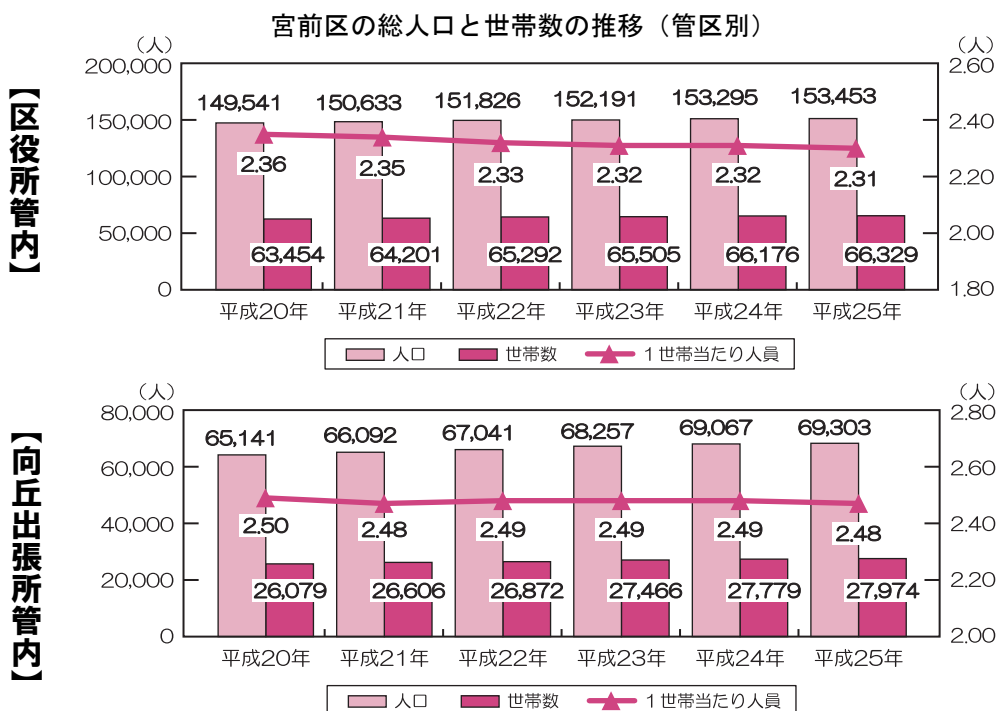
① 総人口と世帯数の推移

宮前区の人口は、平成25年10月1日現在で222,756人と市内で2番目に多く、世帯数は94,303世帯と5番目となっています。また、1世帯当たり人員は、平成22年度からほぼ横ばいが続いています。平成20年からの減少傾向は続いており、ひとり暮らしや夫婦のみの世帯は引き続き増加していると考えられます。



資料：川崎市の統計情報「川崎市の世帯数・人口」（各年10月1日現在）

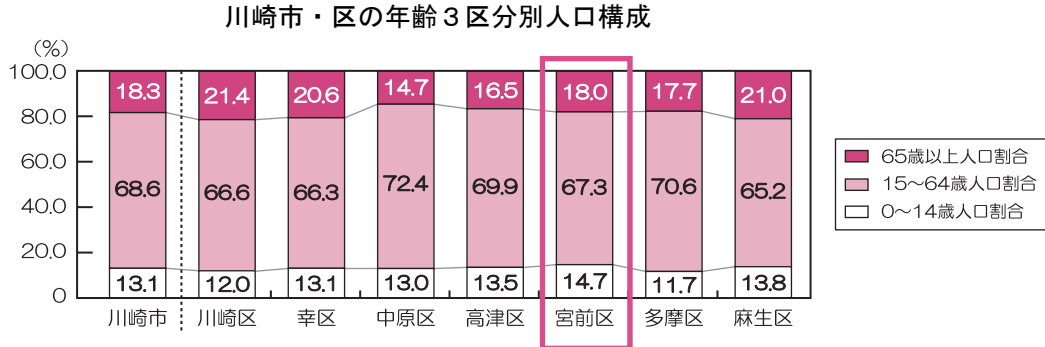
管区別にみると、区役所管内・向丘出張所管内のいずれも、総人口と世帯数は平成20年以降、増加傾向にあります。1世帯当たり人員をみると、区役所管内では平成20年以降の減少は続いており、向丘出張所管内ではほぼ2.50前後で推移し区全体の数を上回っています。



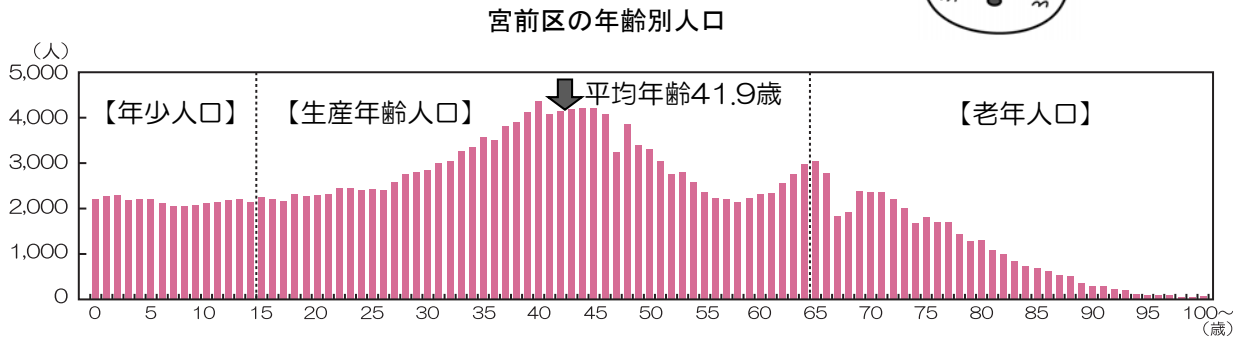
資料：川崎市の統計情報「川崎市の世帯数・人口」（各年10月1日現在）

② 年齢からみる人口の推移

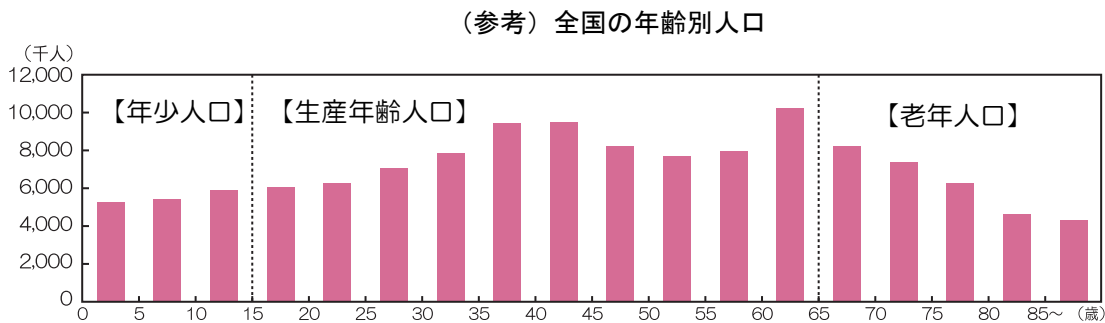
宮前区は、市内で最も14歳以下人口割合が高い区です。また、65歳以上人口割合が5年前から3.1%（7,897人）上昇しており、今後も高齢化の進行が続くと予想されます。



資料：川崎市の統計情報「川崎市年齢別人口」（平成25年10月1日現在）

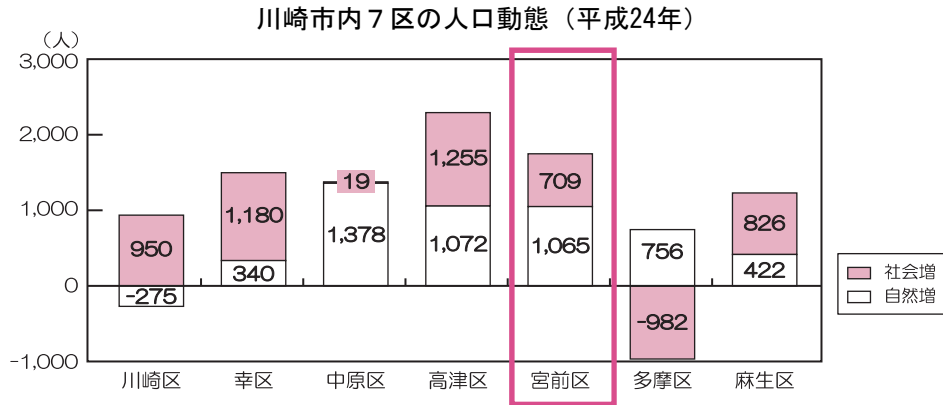


資料：川崎市の統計情報「川崎市年齢別人口」（平成25年10月1日現在）



資料：総務省統計局「人口推計 -平成25年10月報-」（平成25年10月1日現在）

平成24年の人口動態は1,774人増で、出生による自然増が転入による社会増を上回っています。出生による自然増は1,000人を超え、市内で3番目に多くなっています。



資料：川崎市の統計情報「人口動態」

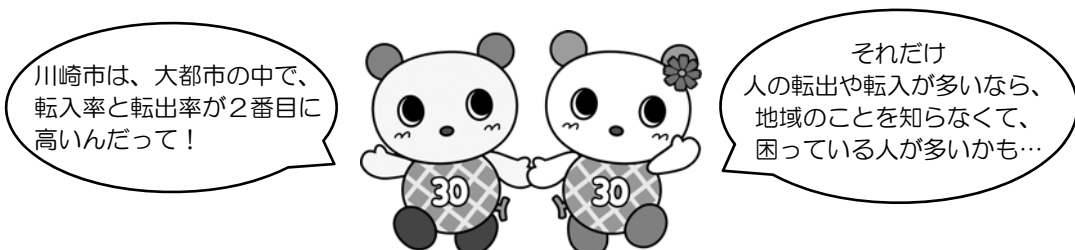
大都市（東京都区部及び政令指定都市）の転入率

順位	自治体名	割合 (%)
1	大阪市	6.62
2	川崎市	5.59
3	福岡市	5.14
4	仙台市	4.76
5	さいたま市	4.48
6	千葉市	4.24
7	名古屋市	3.99
7	相模原市	3.99
9	横浜市	3.77
10	札幌市	3.43
11	京都市	3.36
12	東京都区部	3.28
13	神戸市	3.26
14	岡山市	3.24
15	広島市	3.20
16	堺市	3.08
17	北九州市	2.72
18	浜松市	2.67
19	静岡市	2.64
20	新潟市	2.49

大都市（東京都区部及び政令指定都市）の転出率

順位	自治体名	割合 (%)
1	大阪市	6.22
2	川崎市	5.57
3	福岡市	4.43
4	千葉市	4.25
5	仙台市	4.19
6	さいたま市	4.13
7	名古屋市	3.97
8	相模原市	3.94
9	横浜市	3.79
10	京都市	3.30
11	神戸市	3.10
12	岡山市	3.04
13	堺市	2.99
14	広島市	2.98
15	東京都区部	2.93
16	札幌市	2.90
17	浜松市	2.89
18	静岡市	2.70
18	北九州市	2.70
20	新潟市	2.28

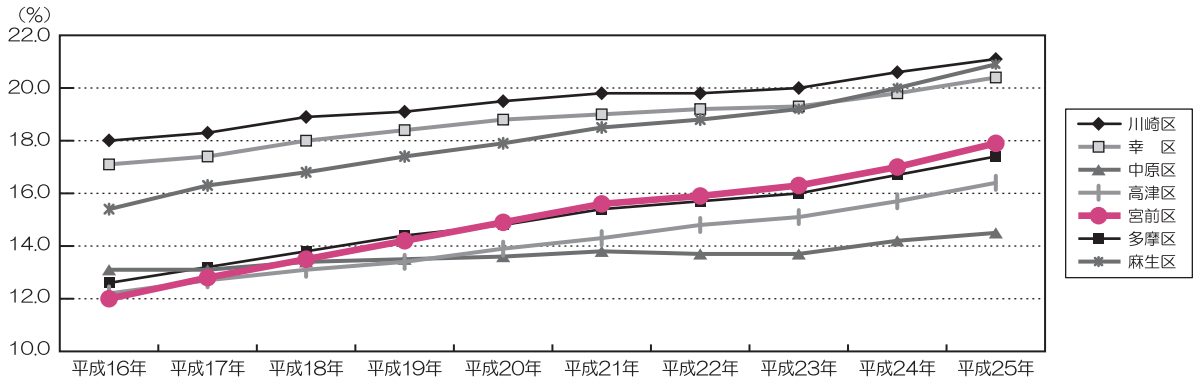
資料：大都市統計協議会「大都市比較統計年表（平成23年）」



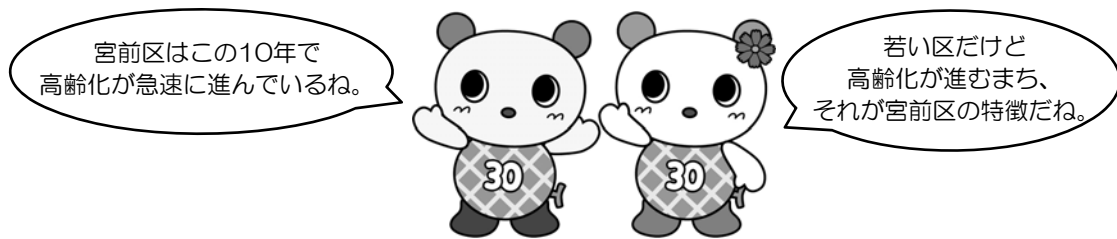
一方で、高齢化も急速に進み、平成16年までは7区のうちで最も低かった高齢化率は平成25年10月には約18.0%となっています。

将来人口は平成32年を頂点に減少過程に移行すると推計されていますが、65歳以上人口はその後も増加を続け、平成52年には30%を超えると予想されています。

川崎市内7区の高齢化率の推移

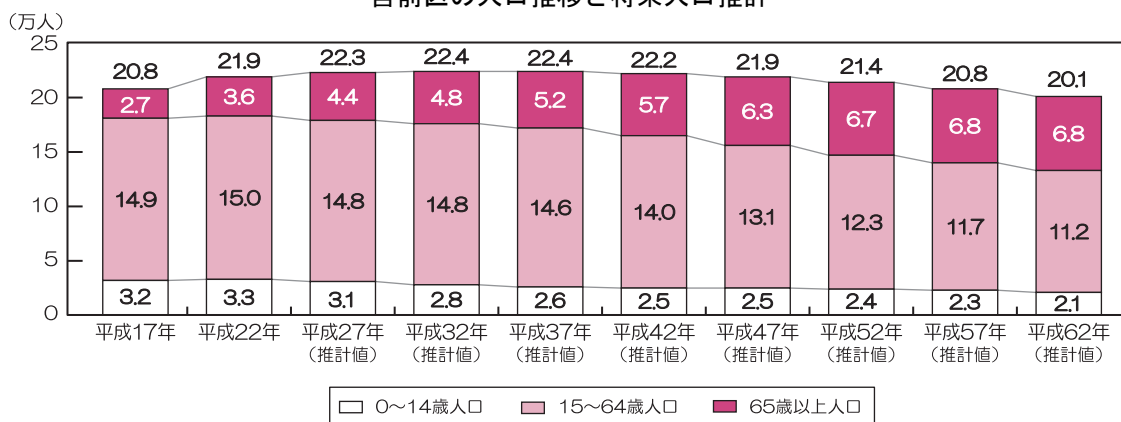


資料：川崎市の統計情報「川崎市年齢別人口」（各年10月1日現在）



さらに、0～14歳人口は平成32年以降30,000人を割り込む一方、65歳以上人口は平成37年に50,000人を超えることから、高齢化の急速な進行が予想されます。

宮前区の人口推移と将来人口推計

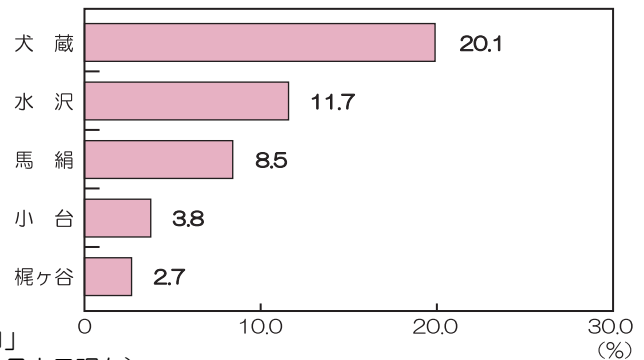


資料：「第3期実行計画の策定に向けた将来人口推計について」平成22年4月 川崎市総合企画局

③ 町別からみる人口の推移

宮前区内の平成22年からの人口増加率を町別にみると、東名川崎インターチェンジに近い「犬蔵」が最も高く、尻手黒川道路に面した「水沢」や「梶ヶ谷」、東急田園都市線の駅に近い「馬絹」や「小台」など、主要な交通機関に近い地域の人口増加が目立っています。

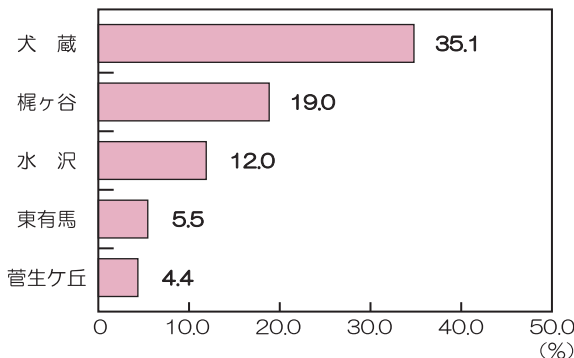
宮前区内の町別人口増加率（上位5町）



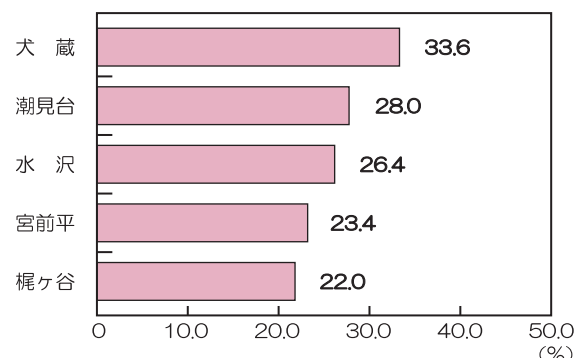
資料：川崎市の統計情報「町丁別世帯数・人口」（平成22年9月末日現在及び平成25年9月末日現在）

年齢別にみると、人口増加率が10%を超えているのは、年少人口（0～14歳）では区内23町のうち3町にとどまっているのに対し、老年人口では17町となっています。特に、老年人口増加率が20%を超えているのは6町あり、急激な高齢化の進展がみられます。

宮前区内の町別年少人口増加率（上位5町）



宮前区内の町別老年人口増加率（上位5町）



資料：川崎市の統計情報「町丁別年齢別人口」（平成22年9月末日現在及び平成25年9月末日現在）

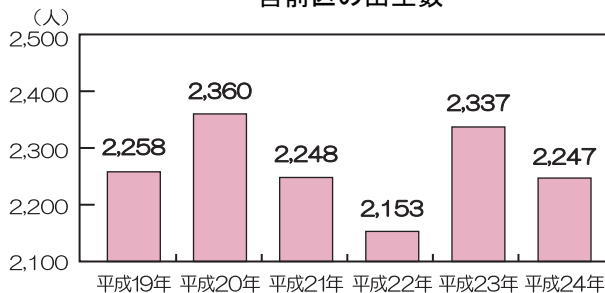
④ 出生数・出生率の推移

過去6年の出生数は、2,000人を常に上回っています。出生率（人口千対）をみると、川崎市平均を上回る年が多く、平成24年には10.0‰（パーミル）を割り込んでいるものの、全国平均の8.2を上回っています。

宮前区は子どもが多いね。



宮前区の出生数

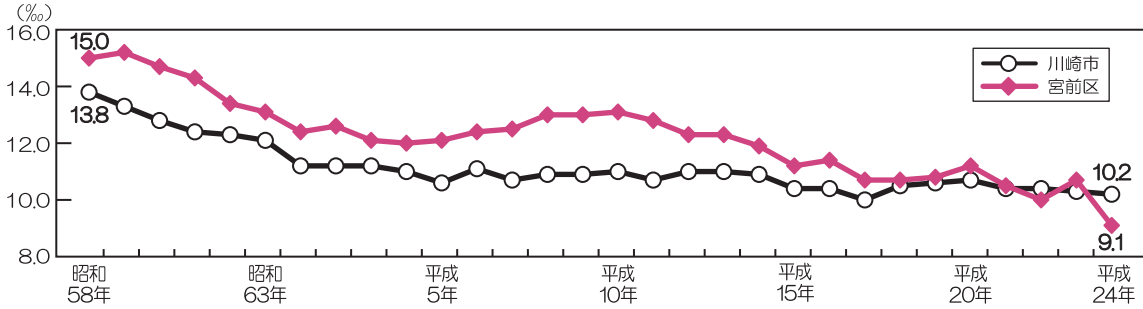


市内7区の出生数（合計）



資料：川崎市健康福祉年報

出生率（人口千対）の推移



資料：川崎市健康福祉年報／厚生労働省 平成24年人口動態統計月報年計（平成24年出生率全国平均）

大都市（東京都区部及び政令指定都市）の自然増加比率

順位	自治体名	割合 (%)
1	川崎市	0.33
2	福岡市	0.27
3	広島市	0.18
4	さいたま市	0.17
5	相模原市	0.12
6	千葉市	0.08
6	横浜市	0.08
6	岡山市	0.08
9	名古屋市	0.02
10	東京都区部	0.01
11	仙台市	0.00
11	堺市	0.00
13	浜松市	-0.01
14	札幌市	-0.08
15	神戸市	-0.11
16	大阪市	-0.16
16	京都市	-0.16
18	新潟市	-0.17
19	静岡市	-0.21
19	北九州市	-0.21

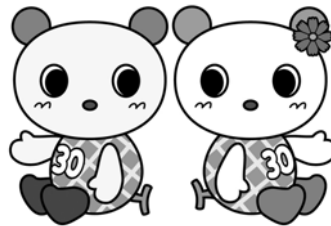
大都市（東京都区部及び政令指定都市）の出生率

順位	自治体名	割合 (%)
1	川崎市	1.02
2	福岡市	0.98
2	広島市	0.98
4	岡山市	0.95
5	浜松市	0.91
6	名古屋市	0.90
7	堺市	0.89
7	さいたま市	0.89
9	大阪市	0.88
10	北九州市	0.87
11	横浜市	0.85
11	仙台市	0.85
13	神戸市	0.84
14	千葉市	0.83
15	相模原市	0.82
15	静岡市	0.82
15	東京都区部	0.82
18	新潟市	0.79
19	京都市	0.78
20	札幌市	0.75

資料：大都市統計協議会「大都市比較統計年表（平成23年）」

※自然増加比率：出生率と死亡率の差の比較

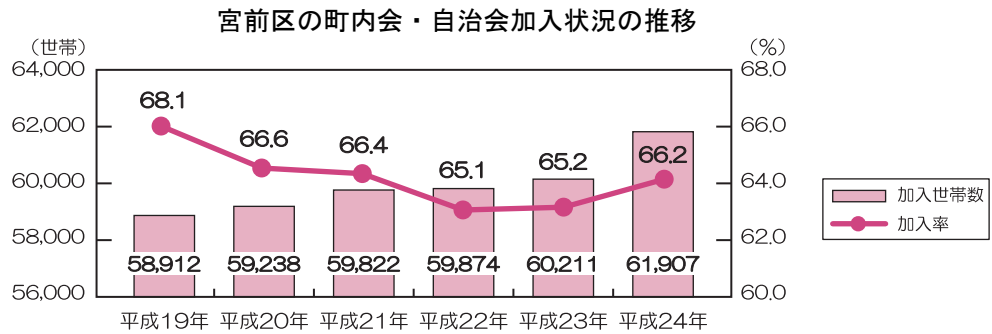
川崎市の自然増加率が
大都市の中で1位！
26年連続だよ！



川崎市の出生率も
大都市で1位だよ！
「若い都市」だね。

⑤ 町内会・自治会への加入状況

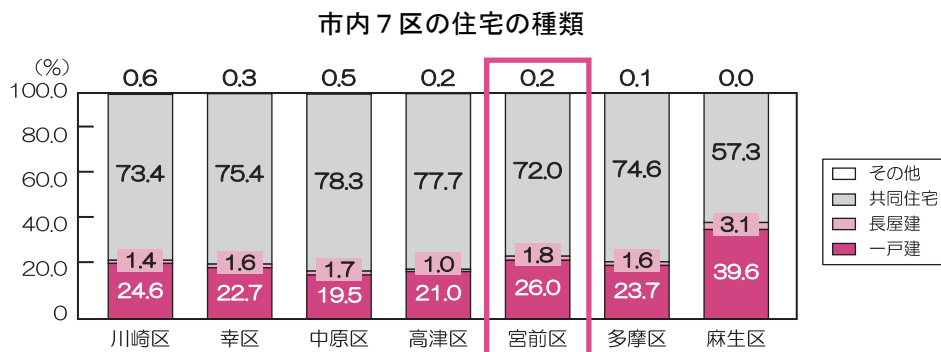
町内会・自治会への加入状況を見ると、世帯数の増加に伴い、平成23年度以降は加入世帯数が60,000世帯を突破しています。加入率は平成20年以降、65%前後で推移しています。



資料：川崎市統計書（各年4月1日現在）

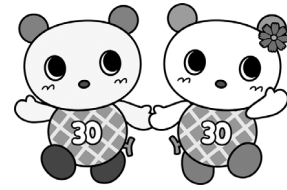
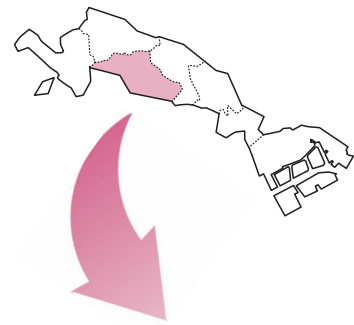
⑥ 住宅の状況

平成20年度の区内にある共同住宅（アパート、マンションなど）は、64,520軒で、区内の住宅の72.0%を占めています。



資料：総務省統計局 平成20年住宅・土地統計調査（平成20年10月1日現在）

(3) 宮前区の地域福祉マップ



施設名や所在地は、98 ページ資料編「6 宮前区の社会資源一覧」に掲載しているよ。

● 子育て文化センター

名称
1 宮崎子育て文化センター
2 有馬子育て文化センター
3 野川子育て文化センター
4 宮前平子育て文化センター
5 平子育て文化センター
6 白幡台子育て文化センター
7 菅生子育て文化センター
8 蔵敷子育て文化センター

0~14歳の人口割合が高い地区

順位	町丁名	年少人口割合(%)
1	水沢2丁目	28.3
2	宮崎4丁目	26.3
3	犬蔵2丁目	21.2
4	東有馬2丁目	20.0
5	有馬7丁目	19.5
6	潮見台	19.3
	土橋5丁目	19.3
8	土橋2丁目	19.2
9	犬蔵3丁目	19.0
10	土橋7丁目	18.9

(平成25年9月末日の町丁別年少人口割合)

65歳以上の人口割合が高い地区

順位	町丁名	老年人口割合(%)
1	五所塚1丁目	35.5
2	東有馬5丁目	34.9
3	白幡台2丁目	34.4
4	神木1丁目	33.4
5	菅生3丁目	31.9
6	けやき平	31.6
7	平2丁目	30.3
8	五所塚2丁目	29.8
9	菅生6丁目	28.8
10	白幡台1丁目	28.0

(平成25年9月末日の町丁別老年人口割合)

○ 地域子育て支援センター

名称
1 さぎぬま
2 すがお
3 花の台
4 ペジーブル
5 たつのこのこ
6 たいら
7 みやざき
8 のがわ

◆ 市民館等

名称
1 宮前市民館
2 宮前市民館菅生分館
3 有馬・野川生涯学習支援施設アリーノ
4 こどもサポート南野川
5 福祉パルみやまえ

★ いこいの家

名称
1 野川いこいの家
2 有馬いこいの家
3 白幡台いこいの家
4 平いこいの家
5 鷺ヶ峰いこいの家

□ 地域包括支援センター

名称
1 みかど荘
2 鷺ヶ峯
3 富士見プラザ
4 レストラン川崎
5 フレンド神木
6 宮前平
7 ピオラ宮崎

☆ いきいきセンター(老人福祉センター)

名称
1 宮前いきいきセンター

◇ 地域療育センター

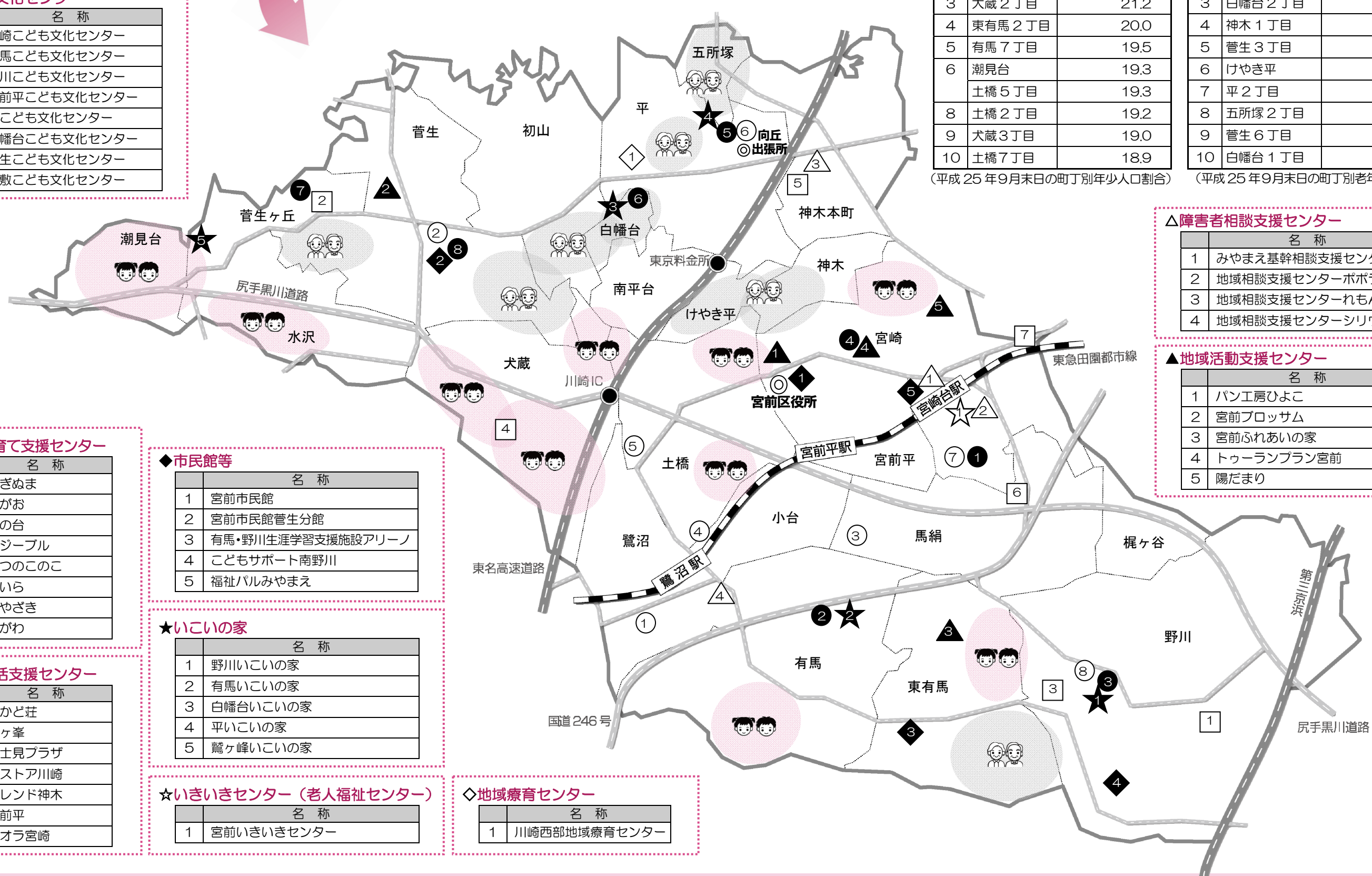
名称
1 川崎西部地域療育センター

▲ 障害者相談支援センター

名称
1 みやまえ基幹相談支援センター
2 地域相談支援センターボラス
3 地域相談支援センターれもん
4 地域相談支援センターシリウス

▲ 地域活動支援センター

名称
1 パン工房ひよこ
2 宮前プロッサム
3 宮前ふれあいの家
4 トゥーランブラン宮前
5 陽だまり



2 区民が抱える生活課題

(1) 第3回川崎市地域福祉実態調査からみえる課題

平成25年1月に行われた「第3回川崎市地域福祉実態調査」について、宮前区の集計結果をもとにして課題を挙げました。

※調査結果の詳細は、81ページ 資料編「4 第3回川崎市地域福祉実態調査報告より」に掲載しています。

地域の生活課題

宮前区に在住する20歳以上の男女を対象とした「地域の生活課題に関する調査」から

◇住民同士の交流と助け合いが必要！

近所づきあいの程度は？

あいさつ程度

5割



近所づきあいや地域住民同士の交流の必要性は？

普段から交流必要

6割



今後、地域福祉を推進するため市民が取り組むべきことは？

助け合いの意識の向上

5割



◇地域ぐるみでのひとり暮らしや高齢者世帯に対する見守りが必要!

孤立死の原因として大きな問題は？（複数回答）

ひとり暮らしや高齢者のみの世帯の増加

8割



隣近所との付き合いが少ない

7割



家庭内のことに他人が立ち入りにくい

5割



孤立死を防ぐために有効だと思うものは？（複数回答）

隣近所や町内会による安否確認

5割



民生委員児童委員の訪問による世帯状況の把握

5割



◇区民の自発性を促す共助の仕組みづくりが必要!

地域の人たちにしてあげられる手助けは? (複数回答)

安否確認の
見守り、声かけ

7割



災害時の手助け

4割



ちょっとした買い物

4割



◇利用しやすい相談体制や適切な情報提供の整備が必要!

地域福祉の推進に向けて必要な行政の取組は? (複数回答)

福祉サービスの評価や
内容の開示

5割



サービスが利用できない人
への対応の充実

4割



地域福祉を担う人材の育成

3割



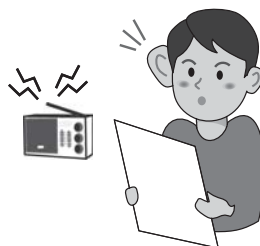
東日本大震災後の意識の変化は？（複数回答）

防災意識が高まった



8割

正しい情報を入手することの必要性

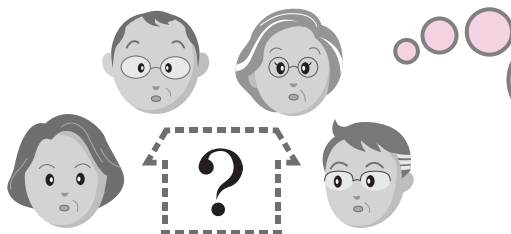


7割

地域福祉活動に関する課題

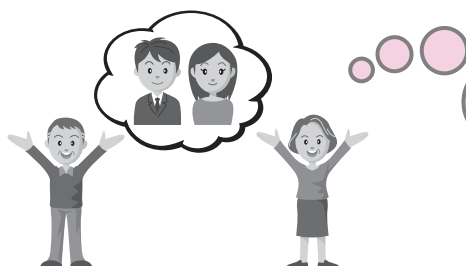
宮前区を活動地域としている地域福祉活動団体を対象とした「地域福祉活動に関する調査」から

◇活動場所の確保！



現在の活動場所は、町内会・自治会の集会場、福祉パル、区役所、市民館などが主だけど、なかなか予約が取れないよ…

◇活動にかかわる人材の確保・育成！



新たなスタッフの確保、スタッフの高齢化が大きな課題…

◇活動団体の相互交流！



お互いに協力し合い、情報交換することが重要なんだ…

(2) 区役所職員アンケートからみえる課題

平成25年6月に、地域福祉にかかわる区内5課（こども支援室、児童家庭課児童家庭サポート担当、高齢・障害課、保護課、地域保健福祉課）を対象に行った「地域福祉活動に関する職員アンケート」からの意見をもとにして、課題を挙げました。

◇活動にかかわる人材の確保・育成

業務でかかわっている地域の活動団体について気になっていることは？



「新たな担い手（スタッフ）が確保できない」「スタッフが高齢化している」など、スタッフの確保についての回答が多い。

新たな担い手の確保や高齢化が、全体的な課題として挙げられる。そのため、活動にかかわる人材の確保・育成が必要になってきている。

◇活動団体・社会福祉協議会との連携

業務でかかわっている地域の活動団体と地区・区社会福祉協議会との連携は？



「定期的に交流や連携を図っている団体がある」と「年に数回だけ交流や連携を図っている団体がある」が7割近い。

業務において地区・区社会福祉協議会に期待する活動は？



「ボランティア活動の促進」と「身近な相談の場としての機能強化」が最も多い。

地域福祉活動やボランティア活動が展開しづらくなっているという課題が挙げられる。そのため、今まで以上活動団体などとの連携が必要になってきている。



◇区民の助け合いと行政サービスとの連携

今後、地域福祉を推進していくために、行政が取り組むべきことで重要なものは？



「サービスが利用できない、結びつかない人への対応の充実」が最も多い。

市民が取り組むべきことで重要なものは？



「地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること」が最も多い。

いざというときに住民がお互いに助け合える地域を目指すためには、身近な人へのあいさつを日ごろから習慣付けることをきっかけにした関係構築が必要になってきている。

(3) ワークショップからみえる課題

3回のワークショップにおいて、区民、町内会・自治会役員、民生委員児童委員などから出された意見をもとにして、課題を挙げました。

○平成24年10月：テーマ：「災害時に生きる！地域のつながり」

趣旨：日ごろからどのような人と人とのつながりがあれば、災害時に活かされるのか

○平成25年9月/平成26年2月：

テーマ「地域のまなざしづくりを目指して」パート1・パート2

(自閉症を持つ子どもの親、視覚障害を持つ方の体験発表と意見交換)

趣旨：「してあげる」関係づくりでなく、まずは理解する姿勢を持つ

◇普段から人と人とのつながりを

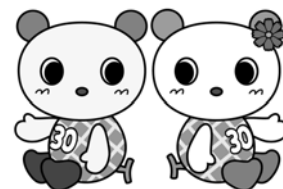
- ・普段からの近所づきあいが大事。
- ・あいさつなど、普通のことから始めよう。

◇大事にしたい「あいさつ」と「お祭り」

- ・隣近所の人とのつながりを強めるためには、町内会・自治会の行事や、お祭りなどに参加することが大事だ。お祭りなど楽しく参加できる場をもっと増やしてほしい。

◇地域に暮らす人の「困り感」は、人それぞれ

- ・何かしてあげようとする前に、もっと理解しようという姿勢を持ち、暖かいまなざしを地域に増やしていくことが大事。
- ・素直に「何に困っているのか、教えて」という理解する姿勢が大事だとわかった。知らないから傷つけてしまう。もっと理解する機会をつくってほしい。



(4) 団体のアンケートからみえる課題

平成25年9月に、団体に行ったアンケートの意見をもとにして課題を挙げました。

◇広報・情報提供の必要性

- ・講座などにいかに多くの人に参加してもらえるかが大切で、広報の工夫が必要。
- ・様々な媒体で、情報提供の方法を検討する必要がある。
- ・主催者によって、テーマや日程が重ならないような調整が必要。

◇各活動団体との連携

- ・家庭内でも複雑な問題が複合的に存在しているケースが多くなっているため、それぞれの機関の関係者が交流などで「顔のみえる関係」になることが大切。
- ・高齢者の孤立防止については、地域、町内会・自治会の力量に合った取組があり、いろいろな形のチャレンジが必要。

◇活動にかかわる人材の育成

- ・本当に福祉の支援を必要としている人に対し、民生委員児童委員などによる個別アプローチや対応が必要。対応する人が十分な知識や情報を持っているのかも重要である。
- ・福祉に精通している人の必要性。

3 第3期計画の振り返り

(1) 第3期計画における重点項目

1 「みんなで福祉のまちづくり！」広報

区民が、すでに行われている地域福祉活動を知ることによって、興味を持ち、参加する意欲が高まることを目的として、第3期計画では、区内の福祉活動団体を取材し、活動内容を宮前区ホームページやチラシなどによって広報するといった活動支援を行いました。

その結果、広報を見て団体の活動に加わり、運営の中心的役割を担う人材が生まれたことなど、地域福祉活動に参加する人が増えるといった効果が現れています。

今後は、団体活動に限らず、町内会・自治会活動などにも視野を広げ、様々な活動を紹介することによって、コミュニケーションの場を増やし、活動の工夫点を共有しながら、自分の身近なところで、地域福祉活動を展開できる人が増えるよう、支援を続けていきます。

2 なんでもワークショップ（地区別意見交換会）の開催

高齢者や障害を持つ方などを取り巻く生活課題、災害時の備えなど、身近な課題を地域としてどう考えるかをテーマとして、区民同士で共に考える基盤づくりを目的として、ワークショップを開催しました。

平成23年度は、「地域が主体となった高齢者の見守り促進」事業のモデル地区である公営住宅2か所を会場として、意見交換会を行いました。住民が実践している地域活動の経験を伝え合い、地域の高齢者を取り巻く課題や、活動の工夫点についての情報交換が、活発に行われました。

平成24年度は、「災害時に生きる！地域のつながり」をテーマとして、日ごろから人と人とのつながりをつくるために何ができるかについて、意見交換を行いました。民生委員などと顔見知りになることで、より有効に災害時の支援体制をつくることや、普段のあいさつや隣近所での声かけから顔見知りになり、「ご近助力」を高めることが大事であることなどが、意見として挙げられました。

平成25年度は、「地域のまなざしづくりを目指して」というテーマで、自閉症を持つお子さんを育てた方や視覚障害を持つ方に、体験発表をしていただきました。発表の内容から、「何かをしてあげる」姿勢ではまちづくりはできないこと、「助けてあげる」「助けてもらう」という関係ではなく、障害を持った人の話を「家族のことだと思って」耳を傾け、まずは理解する姿勢が大事であると学ぶことができました。そして、どんな手助けが必要かを教えてもらう姿勢を持つ、家族のようなまなざしで見守ろうということが、意見として多く挙げられました。

第4期宮前区地域福祉計画においても、意見交換会を通じて、地域における様々な課題をテーマに、区民の絆を深めていきたいと考えています。

勇気を出して、話してみよう。
家族のことだと思って、聞いてみよう。
そこから何かが始まるから…。



3 地域が主体となった高齢者の見守りの促進

平成23年度は、区内の公営住宅2か所（南平耐火住宅、鷲ヶ峰西住宅）に住む高齢者世帯とその他の世帯を対象に、公営住宅における生活上の困りごとや住民同士のつながりの実態、日常生活の手助けに関するニーズなどについての調査を行いました。

平成24年度は、前年度に調査を行った公営住宅2か所で、集会所などでの保健師による健康相談・様々な講座・演奏会や、見守りベストを着用したボランティアによるパトロールなどに取り組みました。

平成25年度は、実施地区に有馬第二住宅を加え、地域での見守りに関する関係者（自治会、民生委員児童委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会、地域保健福祉課、保護課、高齢・障害課）によるネットワーク会議の開催や、空き住戸を使用する見守り事業拠点の確保について、市まちづくり局との連携を図りました。

今後は、「高齢者見守り活動事例集」を活用し、地域主体の見守り活動や居場所づくりの支援を推進します。



南平見守り活動拠点

(2) 第3期計画の評価と課題

基本目標1 情報提供を充実させ、相談環境づくり

基本方針	第3期計画（平成23年度～平成25年度）の事業・取組
1 区民が主役の地域福祉活動を促進するための広報等を充実します。	◎1 「みんなで福祉のまちづくり！」広報 ◎2 みんなで実践、健康づくり支援事業（健康づくり情報発信） 3 子育て情報発信事業
2 区民同士の交流を促進する講座・講演会等を充実します。	1 精神障害者家族教室の開催 2 高齢者支援制度や介護予防など高齢者に関する普及啓発活動の実施 3 地域福祉に関する区民向け講座等の開催 4 シニアライフ支援事業 5 親と子の子育て応援セミナー事業

◎：第3期計画の重点項目 ◎：第3期計画から新規に行われた事業

情報提供の手段として、チラシや情報誌、区ホームページを活用しています。

また、区民を対象とした様々な講座を開催することにより、参加者同士が顔見知りになって自主グループができるなど、新たな活動への発展が見られました。

引き続き、効果的な情報提供の手法を検討した上で、多様なニーズにこたえる講座・講演会の開催に努め、区民が気軽に相談のしやすい環境づくりに努めていきます。



「みんなで福祉のまちづくり！」広報で紹介した福祉活動団体

基本目標2 地域福祉を担う人材の育成

基本方針	第3期計画（平成23年度～平成25年度）の事業・取組
1 区民の福祉活動への参加を促進する講座・講演会等を充実します。	◎1 なんでもワークショップ（地区別意見交換会）の開催 2 認知症サポーター養成講座の開催 ㊦3 介護予防（認知症予防等）ボランティア養成講座の開催 4 障害者（児）を理解する講座の開催 5 子育てボランティア養成講座の開催
2 子どもが福祉への理解を深める機会の提供を図ります。	1 福祉体験学習講座の開催
3 地域の活動団体の相互交流を支援します。	1 精神保健福祉関係団体意見交換会 2 宮前すこやか連絡会の開催 3 子育てボランティア学習交流会

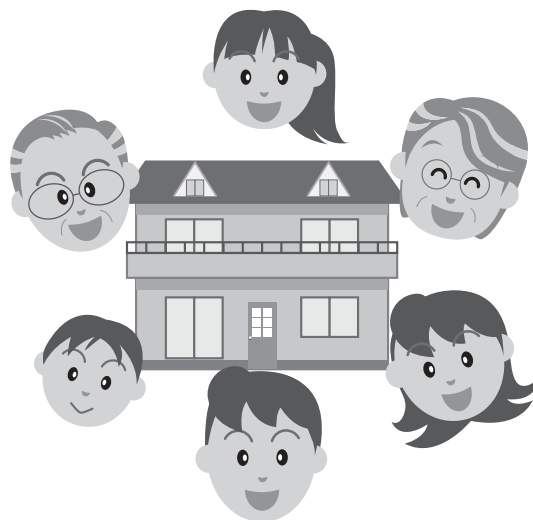
◎：第3期計画の重点項目 ㊦：第3期計画から新規に行われた事業

福祉意識の啓発や、区民の地域福祉活動への参加及び相互交流の促進を目的として、なんでもワークショップ（地区別意見交換会）や、認知症や障害を理解するための各種講座を開催し、区民や団体の相互交流を促すとともに、人と人とのつながりづくりの土台となる機会を提供することができました。

小中学生を対象とした福祉体験学習講座は、若い世代に対する福祉への理解を進める機会として開催しています。

地域の活動団体の交流会については、情報の共有や参加者の相互交流の場として、継続的に開催することができています。

引き続き、講座・講演会や連絡会等の開催により、福祉意識の啓発や活動団体や関係機関相互の協力関係づくりに努め、区民の自主的な地域福祉活動を支援していきます。



基本目標3 住民同士の助けあいの意識を向上

基本方針	第3期計画（平成23年度～平成25年度）の事業・取組
1 すべての世代が交流し、コミュニティの輪を広げる意識づくりを支援します。	1 ウェルカム！みやまえキャンペーン 2 民生委員・児童委員や子育て団体等が行う子育て交流会などの地区活動への支援 3 「ディスカバーウォークみやまえ」開催による地域の福祉発見 4 みやまえふれあいフェスタ 5 しあわせを呼ぶコンサート
2 助けあいのネットワークを地域に広げるために、区民、地域の活動団体、行政の連携を強化します。	1 地域包括ケア連絡会議との連携・調整 2 要支援児童ネットワーク会議 3 障害者（児）支援ネットワークづくりの支援 ㊦4 災害時要援護者避難支援制度の推進 ㊦5 主任児童委員と保健福祉センターとの連絡会 6 高齢者等健康づくりの支援（公園体操の支援など） ㊦7 地域関係団体との連携等による食育の推進 ㊦8 宮前区地域障害者自立支援協議会
3 誰もが安心して生活できる地域環境づくりを推進します。	㊦◎1 地域が主体となった高齢者の見守りの促進 ㊦2 こんにちは赤ちゃん事業 3 子ども・子育て支援ネットワーク会議

◎：第3期計画の重点項目 ㊦：第3期計画から新規に行われた事業

出生や転入により新たに宮前区の住民となる人が増えている背景から、区の魅力を知り、区民同士のふれあいにより地域でのつながりを深めることができるように、様々な事業を実施することができました。東日本大震災や孤立死等の問題をきっかけに、普段からの地域での見守りや人と人とのつながりが重要であることを認識する人が増えており、多くの区民が相互交流を図る機会を提供することができました。

また、福祉に関する多様な支援が求められていることから、関係機関による専門性や連携の強化は重要になっています。子どもや高齢者、障害者、災害時要援護者など、様々な分野について、関係機関による情報や課題の共有を行う機会を多く持つように努めました。

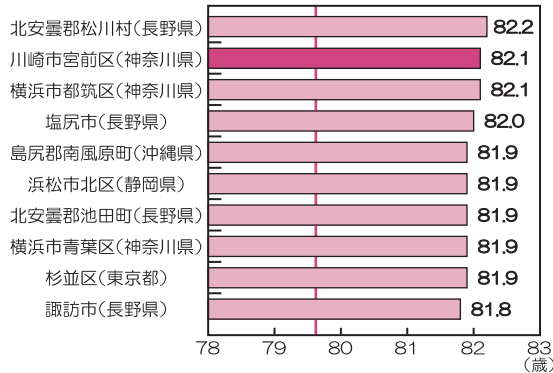
引き続き、地域でのつながりや顔のみえる関係づくりを進め、誰もが安心して生活できる地域環境づくりを推進していきます。

宮前区は長寿の区！

市区町村別平均寿命（上位10市区町村）

【男性】

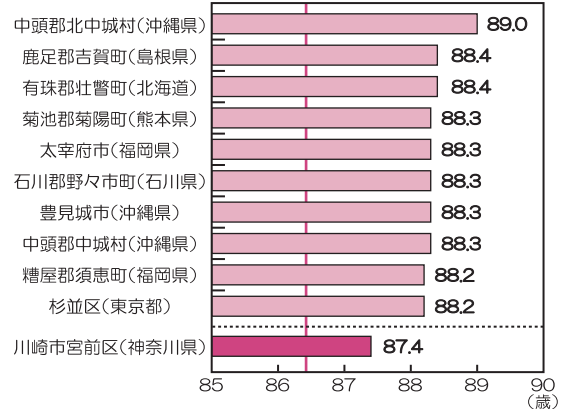
全国平均79.6歳



市区町村別平均寿命（上位10市区町村）

【女性】

全国平均86.4歳



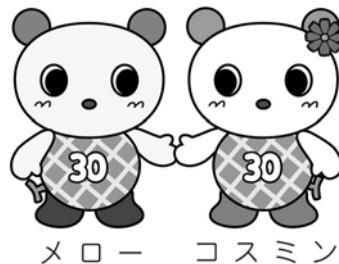
資料：厚生労働省「平成22年市区町村別生命表」

男性の平均寿命は82.1歳で、全国で2番目に高くなっています。女性の平均寿命は87.4歳で、全国平均の86.4歳を1.0歳上回っています。

男性は全国第2位！
すごいね！



ミヤマエキョウダイ
宮前兄妹



キャラクターの「宮前兄妹」(兄：メロー、妹：コスミン)は、宮前区のPRをするため、区名産「宮前メロン」の畑からやってきたんだ。

兄の「メロー」は身体を動かすことが得意な元気いっぱいの男の子。どんな坂道もへっちゃらなんだって。妹の「コスミン」は甘いものが大好きな明るく楽しい女の子。区の花・コスモスの花飾りがとってもお似合いだね。

ふたりは、ジモト宮前区をこよなく愛する、メロンボディがとってもキュートな双子の仲よし兄妹だよ！

団体の活動紹介

東日本大震災避難者支援活動

「ようこそ宮前区へ実行委員会」の活動

「ようこそ宮前区へ」実行委員会とは・・・

宮前区にある国家公務員住宅が、東日本大震災の被災者受入れ住宅となったことを受けて、地域の子育て支援グループのボランティアが宮前区社会福祉協議会に被災者住宅への入居者向けに支援物資提供のフリーマーケット等を行いたいと相談。そこから地元の宮前中央地区社会福祉協議会、宮前区民生委員児童委員協議会とつながり、平成23年4月に「ようこそ宮前区へ実行委員会」が発足し、区内に避難してきた皆さんへの支援活動が始まりました。

構成団体：宮前区民生委員児童委員協議会、宮前中央地区社会福祉協議会、親子で一緒に外遊びの会、子育てサポートほっぷ

ひまわりサロン

宮前区内に避難してきた皆さんの集いの場として、国家公務員住宅内の一室に「ひまわりサロン」を開設しています。日用品の無料配布のほか、相談、情報提供、おしゃべりなど憩いの場として活用されています。避難者の方々が落ち着くまでの間は月～土の毎日開所していましたが、平成23年7月からは毎週月・水・金の週3回、そして平成25年4月からは、開所日を毎週火・金の週2回に縮小し継続しています。



ひまわりサロン



サロンでの交流

会食会等交流会

避難者の方々の横のつながりを作ることを目的にお食事会等の交流会を定期的に行っています。地域の各団体からのご協力で、楽器演奏やビンゴ大会など毎回楽しい時間を過ごしています。



お食事会&マリンバ演奏会



ビンゴ大会



毎年1月の鏡開きには、お汁粉と避難者の皆さんが持ち寄ったご当地料理が並びます。

情報支援

「ようこそ宮前区へ通信」を発行する他、川崎市をはじめ、被災地の行政や国、中央募金会等からの重要な情報をお知らせにして、皆さんにお届けしています。また福島県の新聞をサロンに置いて、地元情報も提供しています。



福島県新聞



情報満載の掲示板

地域からの各種支援など

地域の皆さんから、支援金のご寄付をいただく他、盆踊りや運動会、クリスマス食事会、さくらまつり等の行事へのご招待など、あたたかい支援をいただいております。



我楽多市にて（泉福寺）



花の台町内会盆踊り